

■米国：ニューヨーク州、大気汚染対策設備許可無しの新設ガスパラントの運転認めず

2018年8月7日付の専門誌によると、ニューヨーク州環境保護局（DEC）は、試運転中の Competitive Power Ventures（CPV）社のバレーエナジーセンター発電所（ガス火力）に対し、8月1日付で大気汚染対策申請（Air Permit）を棄却し、定格出力での運転開始を禁止した。発電所が試運転を継続した場合、罰金として違反1件に対し最大1万8,000ドル、さらに違反が継続した場合1日当たり最大1万5,000ドルが科せられるとのことである。NY州では2020年以降にインディアンポイント原子力発電所の閉鎖が予定されており、同州の独立系統運用者である NYISO は、同火力発電所の運転が NY 州の電力システムの信頼性を維持するために必要との考えを示していた。同発電所は、当初2018年2月に計画されていた運転開始が、訴訟や建設の遅れにより、8月中旬に変更されていた。CPV社は発電所の正式な運転開始に向け、DECに新たな申請書を提出することが求められている。